

# TEGOネットだより浜田

はじめに

てご・・・とは、方言で「手伝う（支援）」の意味です

平成19年11月7日 第6号

石見部の米の作況指数は97、加えて2007年産米価は大幅に下落する異常事態となった。このままでは、米（食料）は、農業は、農村は・・・恐ろしいことである。

日本再生の手がかりを求めて農山村を数年にかけて取材した経済学者の金子勝氏は、その報告書「食から立て直す旅 大地発の地域再生」の中で、「あと10年もすれば、日本の農山村は地滑りを起こすように崩壊していくことだろう」と警鐘をならす。

担い手を確保するために奔走している支援センターも、後生のために地域と共に知恵を出さなくてはならない。  
(浜田市農林業支援センター長 三浦)

## 目次

1. 各支援チームの動きについて
2. 水稻V溝直播き栽培（省力化）・多収穫米実証試験報告
3. 行事予定について

### 1. 各支援チームの動きについて

#### ★ 新規就農支援チーム 担当：河内・佐々本

もうお気づきでしょうか？今月号は『販売単価』についてです。

農業経営の本質は「収量×販売単価－経費」であり、売り上げのベースは販売単価（販路）で確定されます。

就農計画（営農計画）を策定する際、安易に市場単価の9割などで設定すると、その農業経営は大変厳しいものとなって計算結果が算出されます。また、市場単価は大きく変動する恐れがあり、さらに、産地知名度や産地力が低いと市場平均単価を大きく下回る結果となってしまいます。

よって、就農相談においては出荷先の確保状況と単価設定について綿密な協議をします。なぜなら、収量を高くするための技術習得と併せて、販路の確保を行うことで安定的な農業収入につながるためです。場合によっては、出荷先の求める商品を提供するために栽培方法を変更しなければならない場合もあります。

このように、販路の確保についても当センターで応援しています！！

多角的に就農計画（営農計画）を検討し、計画の熟度を高めることが成功への第一歩となります。

#### ● 認定農業者支援チーム 担当：前原・末田

先月は、農業経営改善計画（認定農業者が作成する5ヵ年経営計画）の中間年に当たる認定農業者の方を訪問し、聞き取り調査を行いました。この調査は、計画の進捗状況や課題等を聞き取ることにより、5年後の再認定に向けての支援施策を把握する目的で実施しました。

農業のスペシャリストとして活躍される認定農業者の皆さんですが、天候不順や病害虫による被害等で思うように収量が上がらないことが共通する悩みであることや、支援センターに希望する支援策についても様々なご意見・ご要望をいただきました。

有機・エコの認証を受けて安全・安心な栽培に取り組む方、さらなる経営規模拡大を計画さ

## 機械の斡旋コーナー

※詳細は [編集後記](#) 参照



- ①ハーベスター  
(ヤンマーEK50)  
※脱着式、ディーゼル



- ②やましろ製粉ユニット  
YM-3 (京都宝田工業株)  
※単層、1馬力モーター付



- ③モーター ※三相  
3.7kw×2台  
2.2kw×1台  
400w×1台  
200w×1台

れる方、**地元小学校の授業での農業の講師**を引き受けて地域活性化にご尽力される方など、多様な取組みについて伺いました。

農業経営はもちろん、「**地域の活性化**」や「**産地の育成**」といった大きな目標に向かって努力される取組みの実現に向けて、今後もさらなる支援を実施していきたいと思えます。

## ■ 集落営農支援チーム 担当：塚本<sup>つかもと</sup>・森井<sup>もりい</sup>

10月9日(火)より県担い手協議会主催の集落営農塾(後期)リーダー・サポーター研修会が始まりました。本誌の行事予定にも記載しておりますが、浜田地区においては**11月22日(木)**に2回目の研修会が開催されます。

今回は「**様々な集落営農のタイプを知る**」をテーマに掲げ、①**儲かる・攻めの集落営農を展開している事例**、②**地域を守る・維持している集落営農の事例**、③**複数集落による広域化または組織間連携を行っている事例**の3タイプについての紹介です。全体で事例を聞いた後に、各事例報告者を囲んだ3つのグループに分かれて意見交換を行います。集落リーダーの方が日ごろ抱えている悩みの共有化や解決方法のヒントなどを得る貴重な機会です。ご参加お待ちしております。

## 2. 水稲V溝直播き栽培(省力化)・多収穫米実証試験報告

この実証試験は、浜田市旭町に**島根あさひ社会復帰促進センター**が建設されるにあたり、**地元産米**を提供することにより地域農業の振興を図ることを主目的として、厳しい納入希望価格に対応するために、可能な限りの**低コスト生産**と**多収穫生産技術**を追求し、納入実現を図ろうとしているものです。

去る、10月20日に成熟期の遅い品種の最後の稲刈りが終わり、その後乾燥調整等を経て全ての圃場の収量が以下のとおり出ました。

今後、これらの数値から収益性試算等を行い、納入実現に向け検討していきます。

なお、来年も引き続き実証試験を行い、さらに面積を拡大する予定です。ご協力いただける方を募集していますので、**ご協力いただける方や挑戦してみたい方がおられましたら、当センターまでお気軽にお問い合わせください。**

品 種		省力化実証試験		多 収 穫 実 証 試 験			
		コシヒカリ	きぬむすめ	ふくひびき	みほひかり①	みほひかり②	みつひかり
収量 (kg/10a)	坪 刈	490	557	483	403	597	653
	実 収	442	534	444	363	616	640

## 3. 行事予定について

- 11/16 (金) 13:00~ (浜田合同庁舎) 有機野菜販売促進セミナー
- 11/22 (木) 13:30~ (浜田合同庁舎) 集落営農組織化塾(後期)第2回西部地区リーダー研修会
- 12/6 (木) 10:00~ (浜田合同庁舎) 農業経営の法人化・運営等個別相談会

## ■ ■ 編集後記 ■ ■

記念すべき「**機械斡旋コーナー**」の第1回目です!!

全て**年式不明**です。状態等は写真を見て判断願います。**金額は応相談**です。

**上記機械の購入を希望される方(現物を見て判断されたい方でもOK)**は、**支援センター**(下記連絡先)までご連絡ください。所有者の方にお取りつぎいたします。

○当情報誌は新規就農者、認定農業者、集落営農組織と関係機関の皆様に配信しています。  
○ご意見、掲載要望、または配信停止をご希望される場合は下記までご連絡ください。

■ 発行元 浜田市農林業支援センター TEL: 22-3500 FAX: 22-3477  
E-mail: hama-nou-shien@bz03.plala.or.jp